

松が谷高校では初の「海外語学研修（フィリピン）」を実施しました。

令和元年8月18日（日）から25日（日）までの7泊8日の日程で、1学年～3学年の希望者28名の参加による、フィリピンのパナイ島イロイロ市にある語学学校『MK Education』で語学研修を行いました。

この研修は、より英語力を伸ばすため、またグローバル人材に必要な要素を身につけるために今年度から始めたプログラムです。

殆どの生徒が海外初体験で、しかも親元を離れての経験となると、出発時の成田空港ではちょっと緊張。2日目からのマンツーマンレッスン、グループレッスンではすぐに環境にも慣れ、夕方にはデリバリーにも挑戦するなど頼もしい生徒たちもいました。毎日午前中はマンツーマンのレッスンを行い、午後にはグループレッスンをする中で、「ここでは、ALTと違って先生たちが全然日本語がわからないので、自分で頑張るしかない」こと、「きちんとした英語を話さないと通じない」ということに気づき、『覚悟』というものが身についたという生徒、『『恥ずかしがっていたらダメ』ということが分かった』という生徒もいました。

4日目はボランティア活動を行いました。1年半ほど前に洪水で家を流されてしまった人たちが住む新しい住宅を訪れ、子供たちと交流をしました。ゲームやダンスで盛り上がり、昼食にはフィリピン料理を食べました。その後同じ地域内で新しい住居作りをしました。女子は建築中の家の外装をペンキ塗り。男子は、何と、本気の家づくりでした。日本とは家の作り方が違うのが面白かったのですが、家の外枠を作ってから屋内の基礎工事（床作り）をしました。深い穴を掘って、そこに土を埋めていき固めます。その土運びを延々と手伝いました。聞くとところによると、工事が遅れているとか。私たちも重要な労働力になることができ、満足しました。

また、6日目にはフィリピン中央大学（CPU）との姉妹校交流を行いました。パティとなった学生と色々な話ができて、フィリピンの文化やフィリピン人の考え方にも触れることができ、有意義な時間を過ごしました。

帰りの空港で、ある生徒が話していた感想が印象的でした。「今回の海外語学研修は、『練習』と捉えている。次は留学なのか、海外での仕事なのかまだわからないけれど、将来は海外で活躍したいと思っている。次は自信をもって一人で行かれる」と。学校が期待していたことを、口に出して言うまでもなく、生徒自ら感じ取ってくれていたことが分かりました。今回の海外研修を後押ししてくれた保護者に感謝して、この貴重な体験をこれからの人生に役立ててほしいと思っています。（英語科 教諭 井出 佑希）

